

市の家計簿

財政状況を公表します

市民の皆さんや事業所などから納めていただいた税金などがどのように使われたのか、平成25年度決算の概要と平成26年度上半期の財政状況をお知らせします。

問財政課・内線2676

概要

平成25年度決算の概要

一般会計の決算額

平成25年度の歳入決算額は73億8千万円、歳出決算額は70億4千万円となり、歳入歳出差引額から26年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支額は29億円となりました（金額は千万円単位の概数）。

前年度決算額と比較すると歳入では、市税と市債が減額となった一方、手数料はごみ戸別収集・有料化などにより増額、また国や都の支出金が増額となりました。歳出では、国体関連の施設改修工事などが減額になった一方、市民会館の改修工事や特別会計への繰入金などが増額となり、歳入は24億2千万円（3・4％）の増、歳出は29億1千万円（4・3％）の増となりました。

市税の状況

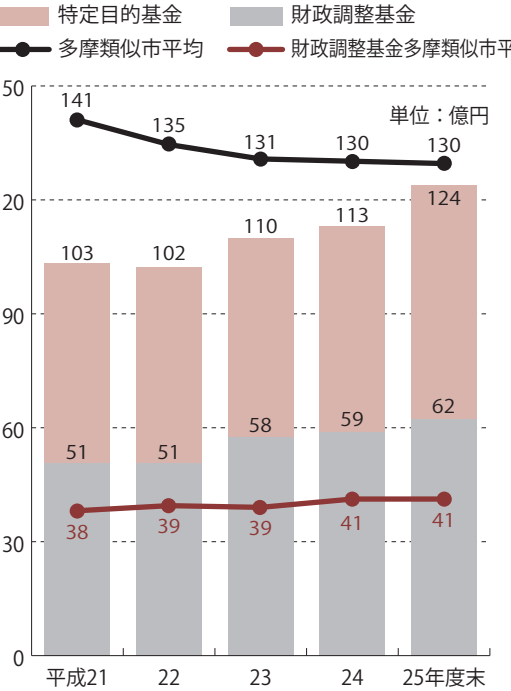
市税収入は375億6千万円となり、前年度決算に比べ、1億7千万円（0・5％）の減となりました。このうち市民税では個人市民税が9千万円（0・7％）の増となる一方、法人市民税は、6億5千万円（11・9％）の減となりました。また、固定資産税は2億円（1・3％）の増となりました。

公表資料の閲覧は財政課へ

財政状況の公表に伴う告示の原本や関係資料などの閲覧を希望する方は、
財政課（市役所2階）内線2676へ

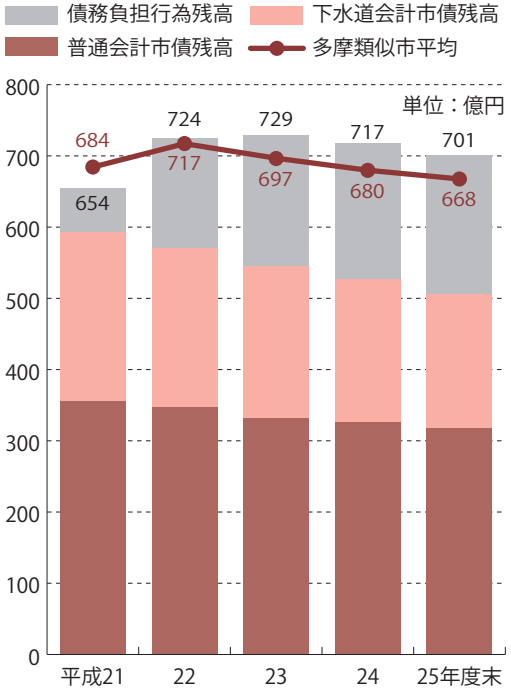
市の基金残高の推移

市の貯金である基金は増加しました。財政調整基金（家計に例えると普通預金）は3億4,000万円を、公共施設整備基金は8億6,000万円を積み立てました。財政調整基金の目標額は80億円。



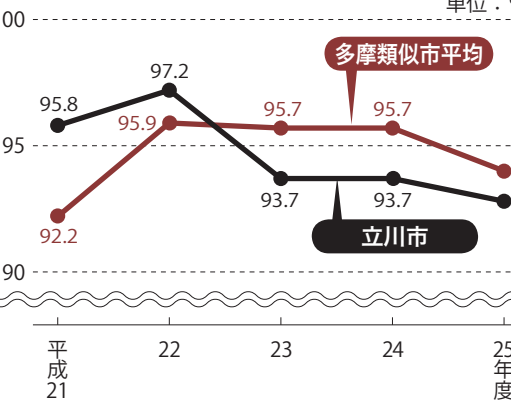
市の債務残高の推移

市債（市の借金）と後年度の債務負担を合わせた将来的な財政負担を示します。市債残高は減少し、債務負担行為残高は増加しました。債務全体としては減少しています。市債は「返す以上に借りない」としているため、残高は減少しています。



経常収支比率の推移

経常収支比率とは、市税など経常的な収入に対する人件費や扶助費、公債費など必ず支出される金額の割合を示したものです。数値が低いほうが財政にゆとりがあるといえます。



財政収支と公債費に関する指標

実質収支比率	7.6%	0.6ポイント減。3～5%が望ましい範囲
公債費比率	5.8%	10%以下が望ましい状態
公債費負担比率	9.1%	15%が警戒、20%で危険ライン
起債制限比率	6.2%	以前は20%以上は地方債の借り入れが制限された
実質公債費比率	2.4%	18%を超えると適正化計画の作成が義務付け

特別会計6事業の決算状況

会計	予算現額	収入済額	収入率	支出済額	執行率
競輪事業	308億2,646万円	304億9,074万円	98.9%	303億6,790万円	98.5%
国民健康保険事業	187億4,216万円	189億660万円	100.9%	186億5,162万円	99.5%
下水道事業	55億3,023万円	53億5,811万円	96.9%	53億3,472万円	96.5%
駐車場事業	1億7,044万円	1億5,308万円	89.8%	1億5,219万円	89.3%
介護保険事業	107億4,421万円	106億7,851万円	99.4%	106億5,599万円	99.2%
後期高齢者医療事業	30億9,114万円	30億1,664万円	97.6%	30億54万円	97.1%
合計	691億464万円	686億368万円	99.3%	681億6,296万円	98.6%

